

2月23日「分かち合う」申命記8：1～10、ヨハネ福音書6：1～15

『問題です。2000円のお弁当を3秒で「安い」と思わせなさい』という本を読んだことがあります。正解が分かる人はいますか？隣に3000円と5000円の弁当を並べるのです。実際、百貨店や駅の弁当屋などで用いられる手法です。会計士の方が書かれた本ですが、数字の“使い方”をいろいろと解説されています。たとえば「タウリン1000ミリグラム配合！」なんだかたくさん入っていて効果がありそうですが、なんてことはない1グラムですよ。数字にはものすごい“魔力”があって、ある意味人間を操ることが出来るということを教えられました。

今日、私たちはヨハネ福音書から、とても有名な5000人の給食の話を聴きました。イエス様のうわさを聞きつけて、人々が集まってきました。イエスは彼らに救いの福音を告げ知らせました。だんだん日が暮れてきました。イエスは人々を腹ペコのまま帰すのは忍びないと思って、弟子たちに食事を用意するように告げました。するとフィリポは答えます。「めいめいが少しずつ食べるためにも、二百デナリオンでは足りないでしょう」1デナリオンは労働者の1日の賃金です。求人サイトで香川県の日雇いバイトを検索すると8000円くらいが相場のようなので、今に換算すると160万円くらいでしょうか。それだけのパンでも足りない、なんせ成人男性だけで5000人もいたのですから！すると、アンデレが一人の男の子を連れてきて言いました。「ここに大麦のパン5つと2匹の魚とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では何の役にも立たないでしょう・・・」さあ、イエス様はどうされたのか？野原に人々を座らせ、少年が持っていたパンを取って神様に祈りをささげてからそれを分け始めました。魚も同じようにしました。するとあら不思議！皆が満腹になったのです。

これは、4つの福音書すべてにある話です。それも何パターンもあります。きっとイエス様の共同体では食事の分かち合いが行われていて、貧しい人や飢えた人、病気の人あらゆる人々が受け入れられた。それも、あ

ちこちでそのようなことをなされた。その驚きと喜びが描かれているのだろうと思います。

ところで、ヨハネ福音書のバージョンでは、弟子たちはやたらと数字にこだわっているんです。「200 デナリオン分のパンでは足りないでしょう。」「5つのパンと2匹の魚（程度）では、何の役にも立たないでしょう！」確かに、弟子たちの言う通りです、5000人の人々を前にして、たった5つと2匹が何になるのか？焼け石に水です。これは現実の私たちの姿そのものではないでしょうか？最初にもお話ししましたが数字には魔力があります。数字になると今まで漠然としていたものがはっきりとわかるようになります。偏差値（学力）、IQ（頭の良さ）、BMI（健康）、GDP（経済）、最近では「お客さま満足度」とか「幸福度」など、私たちの感情さえも数字で測られてしまいます。もちろん便利で良いのですが、ありとあらゆるものが数字で表現されるようになったおかげで私たちはいつしか数字がすべての価値になり、数字にすべての感情が支配されるようになりました。偏差値～以上の学校でなければダメだ！BMIが高くなった、もう人生真っ暗だ！GDPが中国に抜かれたから日本はもう終わりだ！・・・

それは世の中だけに限った話ではなく、教会でも同じかもしれません。総会や役員会でも数字の議論に大きく時間が割かれます。人数の大きな教会や教区の意見は強く、強力です。もはや私たちは神さまではなく、数字を信仰しているのではないか！？と思えるような時さえあるのです。弟子たちもそうでした。5000の前に5個では無意味だ！そう思ったのです。

イエスはそんな「数」に支配される弟子たちに何を教えられたのか？「イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。」まず、イエスは少年によって差し出されたほんの小さな献げものにも感謝します。そしてそれらを分けられたのです！驚くべきことに、200デナリオン（160万円）でも足りないだろうという弟子の試算は全く見当はずれのものになりました。全員が満ち足りたのです。しかも、まだ余るほどになったのです。

数字による支配はしばしば私たちを冷酷にします。冷静に判断して、簡単に他者との関りをなかつたものにします。けれども数に支配される弟子たちにイエスが教えられたことは「分かち合う」ということでした。分かち合えばどんなに小さなものでも豊かになることをイエスは教えられたのです。

神の国は長いスプーンだという話を聞いたことがあるでしょうか？神の国にはめちゃくちゃ美味しいスープが用意されています。素晴らしいのです。でもそれを食べるために用意されている食器は少し変わっています。めちゃくちゃ長いスプーンなんです。どうしても自分で自分の口にそれを運ぶことはできません。どうすれば良いのでしょうか？隣の人と協力しあって、お互いの口に運びあえばよいのです！イエスが教えられた「神の国」の一つの側面を教える良い譬えだと思えます。つまり、私たちは神の国をここにそうやって築いていくのです。私たちはこの物語を奇跡のおとぎ話として聞いてはいけません。これは現実的で実践的な「分かち合う」生き方へと、私たちを「愛」へと招く物語なのです！

この物語で弟子たちを間違いに気づかせたのは“少年”だったことは象徴的です。この時代、人数に数えられるのは、成人した男性のみ。女性、子供は人数にも入れてもらえませんでした。それは、税金を納めることが出来るもの、戦争に行くことが出来る男性のみに価値が置かれていたからでした。ところがイエスはそんな数に入れられない少年の持ち物を分け合って大勢の人の祝福の源にされた。余ったものについてもこう言われます「**少しも無駄にならないように、残ったパンの屑を集めなさい**」（もちろん、イエス様は貧乏くさいのではありません）数にさえ入れられない人々のほんのちいさな献げものを一切無駄にはなさないのです！

年度末が近づいていますが、2019年度は社会福祉法人化のことでずいぶん数字と向き合わざるを得ない1年でした。監査の厳しい役所向けに財産目録を整え、次年度からの移行に間に合うように日程を逆算し、慣れない仕事と重責に本当にくたびれた時期がありました。そんな時期に癒してくれたのは保育園で子どもたちと触れ合う時間でした。この子たちのために、

今頑張っていると気づかされてくれた。私たちを数字から解放してくれるのは、最も小さいものだ、というのは聖書が伝えるところではないでしょうか？

最後に、この分かち合いの食事は私たちにとって最も大切な儀式の原型となりました。もちろん聖餐式です。私たちの教会では特に1つのパンを割いて分かち合うことにしていますが、そこにはこの時の喜びと愛の記憶が刻まれています。私たちは毎月の聖餐を通して、最初の弟子たちの時代から多くの者を分かち合い続けていることを憶えたいと思います！そして、聖餐式から、私たち自身もそのように生きるようにと送り出されているのです！